

地震直前の電磁気変化とその原因

The electromagnetism change just before the earthquake and the cause

國廣 秀光^{1*}

KUNIHIRO, Hidemitsu^{1*}

¹ J Y A N 研究会

¹JYAN meeting fore the study

地震直前の電磁気変化とその原因 (地震予報実験の薦め)

1、地震に係る電磁気環境の変化

(1) ラジオの音声を遮る雑音の発生

直下型地震であった阪神大震災では、ラジオやテレビの障害が多く報告され、無線通信や携帯電話の障害と瞬光等の報告が多かった。(証言集1519)また、東日本大震災の余震でもラジオの雑音障害が報告されている。そのため、常時、広帯域の電磁波を記録しながら異常電磁気の把握に勤めています。

(2) 震源電磁引力と前兆現象

これまで、FM放送を利用した電離層反射の観測や、60MHz付近でFM電波の観測研究が北海道で行われています。そこで、私達の研究会は、九州大分を中心に西日本地域で、16の観測局によってFM放送を64波受信し、インターネットでザビックスグラフを利用して、同時観測ネットを組んで観測しています。これまでの観測では震度3クラスの地震で前兆(電磁波強度が上昇し揺れが始まる)が現れ、終息後6~3日で本震が発生しております。注目点は前兆で「電磁波が強くなる」という通常とは逆の現象から、震源の地上では見通し外で通過するはずの電磁波も、何らかの引力で引き寄せているかのようです。この電磁氣的引力を地震前兆現象の一つとして「震源電磁引力」と呼ぶことにしました。また、この観測網によって異常な方位と強度が判ることから、震源の位置や大きさも推定可能となり、観測網が充実することで地震予知の三要素がより明確にできると考えています。

(3) U L F の地中伝搬

これまでは、電磁波の地中伝搬は岩石等の絶縁体によって無理であり、震源地で電磁気シグナルが発生しても地上への伝播はできない、と言う説が一般的でした。しかし、電磁波の中のU L F帯は独特な伝搬であるため、ある研究グループがアースを利用した通信に挑戦し、約3の交信に成功したという報告があります。また、私も、約150西方にある佐賀県の60KHzで50Kwの電波信号を受信したところ、上空波より地中からの信号が大幅に強いという結果が出ました。この現象から地震の震源地で起きる電磁シグナルを、地震の前兆信号として捕捉できないかと研究を進めています。

2、地震情報一般化の必要性

地震情報は、時として通常の業務に支障を来しパニックの原因となり得ます。従って、地震情報の取扱は慎重にと言うのが通説で、阪神大震災以後も予知情報は各所に留められ地震予報なるものの発表はありません。しかし、それでいいのでしょうか?天気情報は同じ観測情報にも係わらず、何故問題とされないのでしょうか?。答えは一つです。情報が当たっても当たらなくても、気象観測の情報を伝えただけなのです。阪神大震災や福島原発でも情報の扱いが問題になりました。せっかくの情報を留保せずに全部流していたら、多くの方が助かって震災後は復興活動だけになっていたかも知れません。「あさって頃に~~地方で震度4クラスの地震が予想されています。」実際は、刻々と変わる台風情報と同じように、常に情報を送っておけば、パニックは起こりませんし、皆が注意をします。地震情報も解禁方針がベストです。但し「情報の利用は視聴者の責任で」をお忘れ無く。

キーワード: ラジオの音声を遮る雑音の発生, 震源電磁引力と前兆現象, U L F の地中伝搬, 地震情報一般化の必要性

Keywords: The outbreak of the noise to disturb the sound of the radio, Seismic center electromagnetic gravitation and harbinger phe, Underground propagation of U L F, The need of the earthquake information generalization